

# せんだんのき

中原小学校 学校だより

令和6年3月25日

TEL 42-2110

## 令和5年度 学校評価について

2月29日（木）に学校評議員会・学校運営協議会を開催しました。

学校評価については、12月に実施しました生徒・保護者のみなさんのアンケート結果や学校の自己評価をもとに、年度当初に設定した目標を達成できたかどうかを示し、それについて各委員の皆さんからご意見をいただきとりまとめましたので、ご報告させていただきます。また、今年度から学校運営協議会が設置され、そこで評価を行いました。

項目	自己評価	学校等関係者評価
成果 (強み)	地域を題材にした学習活動に取り組み、公民館・まちづくり協議会・社会福祉協議会を窓口として豊富な人材を得ることができた。子どもたちは地域と関わる学校行事はとくに強い興味関心を持って取り組んでいる。このような体験活動から探究活動へと展開する学習にとりくむことができた。また、基礎学力定着のため学習規律の確立や「直し」の徹底等に取り組んできた。	・たくさんの取組を行うことができた。子どもたちは、褒められることが励みになる。体験活動などで地域の大人にほめられたことが学習での発表や内容のまとめなど、学習活動の自信にもつながっていく。 ・1年生の時からたくさんの地域の方に支えられているので、大人に対する接し方を学んでおり、積極的に話しかけにいける。地域の大人と自分という居場所があることはとても大切である。
課題 (弱み)	基本的な生活習慣や学習習慣の定着について、学校からの啓発活動をすすめているが、まだまだ改善の余地がある。特に、早寝・早起き・朝ごはんや家庭学習、家庭での読書習慣(家読)などについては、引き続き、保護者・家庭へのはたらきかけや意識づけにとりくんでいかなければならない。また、不登校等の様々な課題を抱えた子どもたちの居場所作りや学力進路保障も含めて、学校としての柔軟な対応を模索していく必要がある。	・活字を読むということが、文章の理解に大いに役立つ。家庭での読書をさらに進められるよう保護者により効果的に働きかけなければならない。また、異学年に対して同じ本を読み聞かせすることもそれぞれの発達段階にあった読み方ができてよい。読書量の多い子どもは、語彙力や漢字を書く力も着実についており、文章の理解力が高い。
改善策	学校から保護者への情報発信方法を工夫し、学校だより、メール配信、タブレット、Webページなどの活用によって、情報共有できる環境を今後もつくることで、保護者・家庭・地域との連携を図っていききたい。また、学力の定着をめざし、タブレットのドリル教材等を家庭学習等にも活用し、個々に応じた学習課題にとりくむことで、個別最適化を推進していく。読書については委員会や司書の活用も行いたい。今後もさらなる地域学習や体験学習を推進する上で人材発掘等をすすめていく必要がある。	・タブレットを使用した調べ学習はどの子も抵抗なくできているので、紙の辞書とのバランスを考えて使用できるとよい。紙の辞書は、五十音の配列が実感として捉えられ、自分で考えて索引する学びがある。 ・来年度は読み聞かせも復活し、学年や年齢にとられない新たな形で読み聞かせを実践していきたい。 ・幼稚園との交流が計画通りできなかったもので、年度当初から年間計画を意識して交流を行っていかねばならない。

豊かな心と体	<p>①児童 57%(95%)、保護者 74%(97%)の回答がある。また、相談できる友だちがいる児童が 70%(93%)いる。中学校区9年間の人権教育カリキュラムを確認・実践ができた。</p> <p>②特別な支援が必要な児童についての指導計画を策定し、職員会議、研修会の場で情報共有を定期的におこなった。</p> <p>③児童 76%、保護者 87%、教職員 100%の肯定的な回答であるが、児童・保護者へのさらなるはたらきかけが必要である。</p>	<p>・教職員が授業をわかりやすくするという項目が伸びており、前向きな意識がわかる。</p> <p>・すべての教科において問を正しく理解し、返答する「国語力」が必要であり、語彙力や理解力をつけるためには、読書の習慣が不可欠である。紙書籍に対して、昨今は電子書籍が増えているが、より読書体験を豊かにしていくためには、やはり印刷された活字をマイペースで読んでいくことが必要ではないか。</p> <p>・読書を好きになるには、教職員側がその子の興味関心に合った図書を紹介できるとよい。読書が好きな子は漢字もよく書ける。</p>
確かな学力	<p>①児童 57%(93%)、保護者 49%(94%)の回答がある。「能動的な聴き方」を大切にした授業改善を継続する。</p> <p>②58%(100%)の回答となったが、「授業をわかりやすく工夫する」は 73%(100%)の回答があった。</p> <p>③タブレットの授業での活用並びに家庭学習におけるドリル教材の計画的な活用を継続して実施した。</p>	<p>・テレビやゲームでは制限時間があるのに、タブレットは大丈夫なのか心配な面もある。効率よく使用することが大切である。授業としてはポイントで使用するが多い。</p> <p>・ICT 機器についてリテラシー面は子どもたちは非常に伸びているので授業でもタブレットを活用しやすくなっている。</p>
人と人とのふれあい	<p>①全学年が授業規律としての「中原スタンダード」に沿って授業を行うことで、学年が進んでも統一されたルールで授業ができた。</p> <p>②出前授業として11回、体験学習として21回地域の方にお越しいただくことができた。</p> <p>③朝のあいさつを中心に、休憩時も児童会主催の運動を展開した</p>	<p>・ICT 機器についてリテラシー面は子どもたちは非常に伸びているので授業でもタブレットを活用しやすくなっている。</p> <p>・中原スタンダードについては、「あいづち」「反応」を返すことで温かい雰囲気づくりができ、発表をしやすい状況を作り出している。全学年が取り組んでいることは、担任が変わっても授業規律面が統一されているので子どもたちへの継続した指導が可能になる。</p>
特色ある教育課程	<p>①保護者 56%(91%)、教職員 62%(100%)の回答がある。通学路等は検討中である。地震・津波、火災、不審者を想定した避難訓練を 3 回実施し、一次避難は 3 分程度で完了できた。</p> <p>②理科や家庭科において環境についての学習を行っている。6年生が自主的に放課後通学路のゴミ拾いを数回実施した。</p> <p>③教育講演会や異世代交流会などを実施した。</p>	<p>・今年度はメンバーの都合がつかずよみかせボランティアができなかったが、来年度はぜひ取り組んでいきたい。</p> <p>・子どもたちは地域の人に変なついでおり、ほめられると喜ぶ。信頼関係がある。</p>
連携した教育	<p>①全学年が地域を題材にした学習活動が実施できた。</p> <p>②児童の活動を最大限に保障し、21回の体験学習、21回の校外学習、11回の出前授業、15回以上の児童会・委員会主催のたて割り班活動を実施した。また、縦割り班掃除を実施した。</p> <p>③後期には、図書委員会主催の図書フェスティバルを開催し、読み聞かせを行った。また、図書の紹介も行った。</p>	<p>・子どもたちは地域の人に変なついでおり、ほめられると喜ぶ。信頼関係がある。</p>